

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 陽西中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 155人

② 数学 155人

③ 英語 155人

5 留意事項

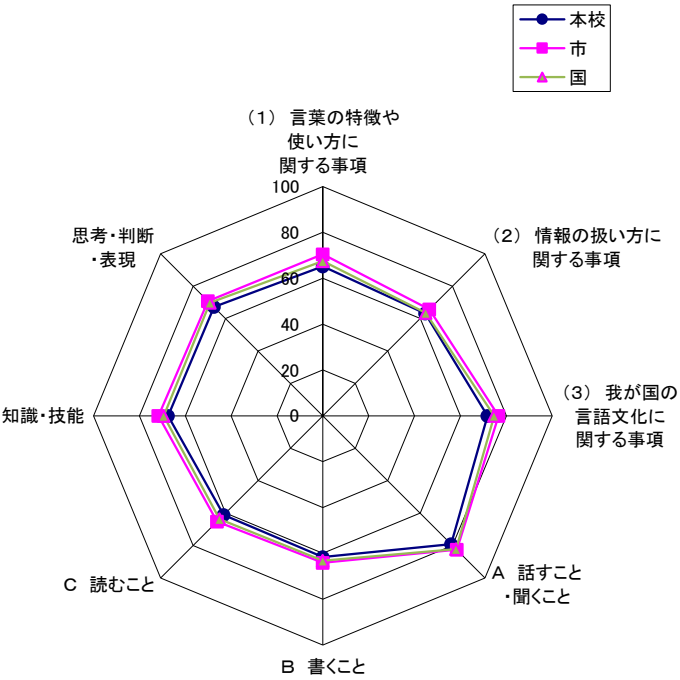
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽西中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.2	70.5	67.5
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	63.2	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	71.8	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	79.1	82.6	82.2
	B 書くこと	61.6	64.1	63.2
	C 読むこと	61.1	65.3	63.7
観点	知識・技能	67.5	71.7	69.4
	思考・判断・表現	67.2	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

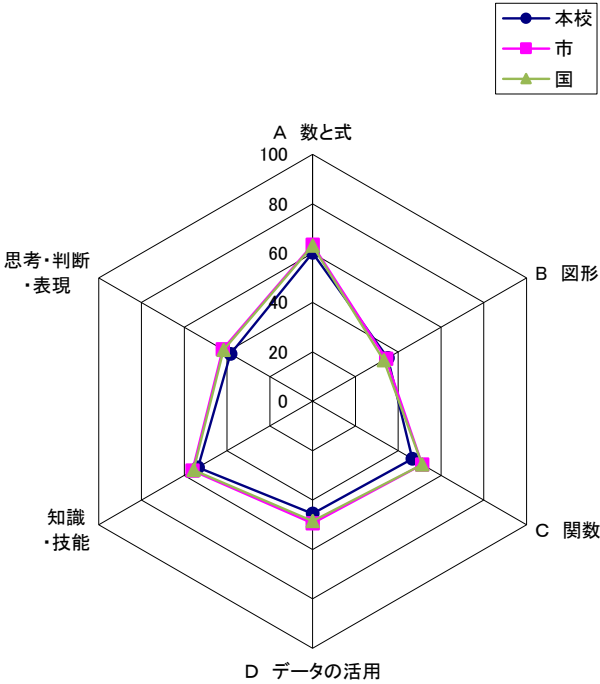
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を2.3ポイント、市の平均を5.3ポイント下回った。 ○「事象や行為、心情を表す語句についての理解」を問う設問では、全国平均を0.5ポイント上回った。 ●「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」設問では、全国平均を5.2ポイント下回った。	・学習の中で学んだ言葉を中心に、行為や心情を表すために必要な語彙の数を増やすことで心情や情景を豊かに表現できることを実感させていく。そしてそれを日常生活での文章表現にも使えるよう指導していく。 ・漢字については、引き続き漢字ワークなどを十分に活用し、定期的に小テストを行うなど定着を図っていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を0.2ポイント、市の平均を2.5ポイント下回った。 ○「意見と根拠など情報と情報との関係についての理解」を問う設問では、全国平均を2.6ポイント上回った。 ●「具体と抽象など情報と情報との関係についての理解」を問う設問では、全国平均を3.1ポイント下回った。	・授業の中で、話や文章に含まれている情報を取り入れて整理したりその関係を捉えたりする力を身に付けさせ、説話や文章を正確に理解できるよう指導していく。また、自分が持つ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながることを理解させる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均を2.9ポイント、市の平均を4.8ポイント下回った。 ○「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる」設問では、全国平均を2ポイント上回った。 ●「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりできるか」を問う設問では、全国平均を4.9ポイント下回った。	・古典の学習においては、歴史的背景などに注意して読ませ、長く親しまれている言葉やその一節を暗唱することなどを通して、その古典の世界に親しむことをさせていく。 ・古典の言葉を基に感想文を書いたり、スピーチをしたりする活動を通して我が国の言語文化であることわざや慣用句、古典などについての関心を深めていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を3.1ポイント、市の平均を3.5ポイント下回った。 ●「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」設問では、全国平均を5.1ポイント下回った。	・聞き取ったことを比較したり評価したりするためには、聞き手自身が話題に対して一定の立場や考えをもっていることが前提となるので、聞き手としてどのような立場に立ち、何を聞こうとするのかを意識させるような授業を工夫していく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均を1.6ポイント、市の平均を2.5ポイント下回った。 ○「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるか」を問う設問では、全国平均を6.3ポイント上回った。 ●「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうか」を問う設問では、全国平均を9.5ポイント下回った。	・今後も書くことへの抵抗感を減らしていくために、日常的に短い文章を書く機会を設けたり様々な種類の文章に触れさせたりしていく。 ・資料を適切に引用して、自分の考えを分かりやすく伝えるように文章を工夫したり、読み手の立場に立って効果的な表現を工夫したりする機会を多く設ける。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均を2.6ポイント、市の平均を4.2ポイント下回った。 ○「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる」設問では、全国平均を2.2ポイント上回った。 ●「文章の中心的部分と付加的部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる」設問では、全国平均を7.1ポイント下回った。	・文章の種類をふまえて、説明文や物語文の展開の仕方などを捉えられるよう指導していく。特に説明的文章では、文章の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的部分を読み取ったり、事実と意見を述べた部分を叙述を基に適切にとらえさせるような練習をさせていく。

宇都宮市立陽西中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	60.1	63.4	63.0
	B 図形	35.1	34.3	33.2
	C 関数	46.6	51.2	51.2
	D データの活用	45.5	49.4	48.5
観点	知識・技能	53.6	56.2	55.7
	思考・判断・表現	38.4	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

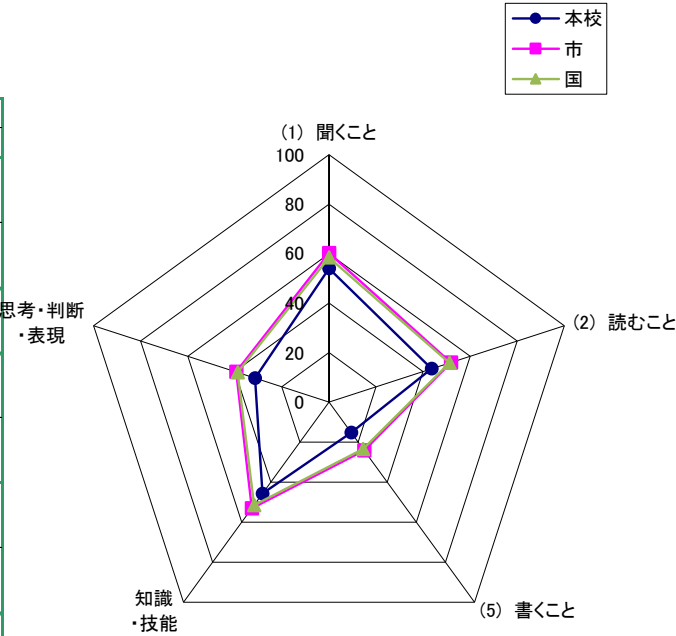
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率は、全国平均を2.9ポイント、市平均を3.3ポイント下回った。 ○「数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる」では、全国平均を1.3ポイント、県平均を1.8ポイント上回った。 ●「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見出し、説明することができるかどうかをみる」では、33.8ポイントの無回答があった。	・基礎的な計算力の向上に向け、計算問題の反復練習や小テストを行い、正答率を高める。 ・数の性質の証明については、文字に具体的な数を当てはめて問題理解の深化を図る。また、証明の書き方の手順を確実に定着させるため、記述式の問題を練習する機会を増やす。
B 図形	平均正答率は、全国平均を1.9ポイント、市平均を0.8ポイント上回った。 ○「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる」問題では、全国平均を7.3ポイント、市平均を5.4ポイント上回った。 ●「条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうか」では、全国平均を3.2ポイント下回り、市平均を3.9ポイント下回った。	・図形についての定義や定理、性質などの学習を丁寧に扱い、理解の深化を図る。また、複数の図形が取り入れられた問題において、着目すべき視点や要点に気付くことができるよう、練習の機会を増やす。 ・ICT教材・教具に具体物を多く取り入れる等の工夫をし、視覚的に理解を促す。
C 関数	平均正答率は、全国平均、市平均ともに4.6ポイント下回った。 ●「事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる」では、全国平均を5.2ポイント、市平均を5.9ポイント下回った。また、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」では、全国平均を8.4ポイント、市平均を6.3ポイント下回った。	・関数を「表」「式」「グラフ」に表し、それぞれを相互に関連付けて、考察できるような力を育成する。また、それを利用して、問題を解決するための論理的な思考や演繹的な思考の涵養を図る。 ・ICTを利用し、視覚的にもグラフの特徴を理解することを促す。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を3.0ポイント、市平均を3.9ポイント下回った。 ○「四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる」では、全国平均を1.8ポイント、市平均を2.3ポイント上回った。 ●「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうか」では、30.5ポイントの無回答があった。	・資料の活用に関しては、何を調べたいのか、どの方法で調べるのかを明確にし、その理由を多角的に説明する活動を通して理解を深めていく。 ・ヒストグラムや度数分布多角形、箱ひげ図については、図に表すことだけでなく、どのような傾向があるのかを考察する活動を通して理解を深めていく。

宇都宮市立陽西中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	54.0	60.2	58.4
	(2) 読むこと	43.6	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	15.3	24.2	23.4
観点	知識・技能	45.7	53.1	51.5
	思考・判断・表現	31.4	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	平均正答率は、全国平均を下回っている領域が多い。 ○「ある状況を描写する英語や買い物の場面での会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題」では、県平均より7.0ポイント、全国平均よりも4.0ポイント高い正答率である。情報を正確に聞き取る力が身についていると思われる。 ●「社会的な問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選ぶ問題」の正答率が低い。短い説明の要点を捉える力を身につける必要がある。	・今後も授業でリスニング問題を多く取り入れたり、ALTの英語を聞く機会を増やすなどの活用をしたりする。 ・さまざまな分野の話題の問題に触れる機会を意識する。 ・英語で会話する時間も授業に多く取り入れ、会話のパターンを定着させる。
(2) 読むこと	平均正答率は、全国平均を下回っている領域が多い。 ○「ある状況を描写する英文を読み、適しているグラフを選ぶ問題」では市の平均、全国平均よりも高い。グラフや表をみながら情報を正確に読みとる力が身につけている。 ●「身近なことについて英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選ぶ問題」の正答率が低い。文と文との関係を正確に読みとる力を身につける必要がある。	・今後も授業で読解問題を多く取り入れる。読解問題に慣れさせるために短い英文から段階的に練習していく。 ・さまざまな分野の話題の問題に触れる機会を意識する。 ・英語で会話する時間も授業に多く取り入れ、会話のパターンを定着させることで会話形式の読解問題にも慣れやすくする。 ・要点をつかみながら解いていくやり方のポイントを身につけられる指導の充実を図る。 ・語彙力を身につけられるような授業を意識する。
(3) 書くこと	「書くこと」の領域は全国平均よりも大きく下回っている。 ○「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりする問題」は他の問題形式より正答率が高い。 ●「学校生活について紹介する英文を書く問題」では正答率が全国平均よりも大きく下回っている。まとまりのある英文を書く力を身につけるのが課題である。	・基本単語は書けるように繰り返しテストなどをして確認をしていく。 ・短い英文を書く練習から段階的にまとまりのある英文を書けるようにしていく。 ・習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・自分の考えを整理し英文にする問題に慣れるように、授業や課題に多く取り入れていく。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との質問に「当てはまる」と回答した生徒は54.5%で、全国平均を10.8ポイント上回った。また、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」との質問に「当てはまる」と回答した生徒は54.5%で全国平均を10.8ポイント上回った。これらのことから、学校で、生徒と教職員との関係はおおむね良好であると考えられる。今後も生徒との信頼関係を大切に、良好な関係を築いていきたい。

○「友だち関係に満足していますか」との質問に「当てはまる」と回答した生徒は61.0%で、全国平均を5.7ポイント上回った。学校生活で学級活動や部活動などを通して良好な人間関係ができていると考えられる。今後もより良い友達関係が築けるよう支えていきたい。

●「将来の夢や目標を持っていますか」との質問に肯定的回答をした生徒は63.0%で全国平均を6.3ポイント下回った。夢や希望を持って粘り強く取り組める生徒を育てていくことが課題である。

●「1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」との質問で「週3回以上」と回答した生徒は49.3%で全国平均を11.8ポイント下回った。ICT機器の活用の充実が学校の重点課題でもあり、今後は授業を通して生徒にタブレットの有用性を実感させられるような活動を多く取り入れたり、教職員の研修をさらに充実させたりしていきたい。

宇都宮市立陽西中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の強化	・「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習のやり方を示し、内容を充実させる指導を行う。 ・「自主学習のたね」等自主学習用のワークシートを配備する。 ・「家庭学習強化週間」を実施し、家庭の協力を依頼する。	・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」との設問で、肯定的に答えた生徒の割合は53.2%で、市(62.1%)や県(55%)の割合を下回っている。
「分かる授業」の展開	・定期テスト前に「質問学習」の時間(放課後30分程度)を設け、教科学習で分からないところの解消につなげる。 ・放課後に月2回程度「レベルアップ学習」の時間を設け、数学を中心に基礎力が不足する生徒の個別指導を行う。	・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と肯定的に答えた生徒の割合は90.9%で市(91.0%)や県(88.9%)とほぼ同じ割合で、9割を超えている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科に関する調査において、無解答であった生徒の割合が10ポイント程度全国平均よりも高くなっていたものがあつた。	基礎基本の着実な定着を図る	・数学科及び英語科において、T・Tや習熟度別学習を行い、基礎が十分でない生徒への支援を行う。 ・「夏休み学習サポート」や「レベルアップ学習」など個別に分からないところを聞くことができる時間を設け、基礎力の底上げをめざす。